- 14 ヤマビル防除薬剤の検討** ○谷 重和（イカリ消毒）、佐々木 修（秋田県立農業短期大学）
Lethal effect of insecticides and deet to land leech Shigekazu Tani And Osamu Sasaki

秋田県井川町・五城目町周辺、千葉県天津小湊町、群馬県中之条町などの地域では山林作業従事者、それらの地域に居住する住民、観光客などの間でヤマビルによる吸血被害が6月～9月に多発して問題となっている。

そこで、我々はヤマビルには即効的致死効果を示すが、人畜や魚類への毒性は低く、植物など自然環境への影響の少ない殺ヒル剤を見い出すため、15種類の薬剤（スミスリン、E T F、ベルメトリンのピレスロイド剤3種、DDVP、バイテックス、スミチオン、マラソンの有機リン剤4種、バイゴンのカーベメイト剤1種、シロネン、ハチクサンのシロアリ防除剤2種、デメリンの昆虫成長抑制剤1種、ディートの昆虫忌避剤1種、ホウ酸、メタアルデヒドアザメチホスのベイト剤3種）について実験室内における殺ヒル効果を調べた。その結果、ディート5%+マラソン1%の粉剤では、10分以内で100%の致死効果のあることがわかり、ヤマビルの有効な防除薬剤の1つとして期待できる。

- 16 屋外の実験条件下で明らかにされたヒゲナガチマダニとヒトツトゲマダニ成虫の2峰性季節消長の違い** 藤本和義（埼玉医大・医動物）
The difference of the bimodal seasonal activities of *Haemaphysalis kitaokai* and *Ixodes monospinosus* adults clarified under experimental outdoor conditions Fujimoto K.

植生上ではヒゲナガチマダニとヒトツトゲマダニの成虫は春と秋に活動のピークがみられる2峰性を示す。しかし、両種の生活史が類似するかどうかは明らかではない。そこで両種の生活史を明らかにする一環として、屋外の実験条件下で、プラスチック円筒を設置し、その中に野外採集した両種の成虫をそれぞれ放して、季節活動性を比較した。その結果、春に採集したヒゲナガ成虫のプラスチック円筒内での活動は春から初夏にかけて活発であったが、秋にはすべての成虫が死亡した。一方、春に採集したヒトツトゲ成虫の活動も春から初夏にかけて活発であったが、その活動は秋にもみられた。これらの結果は春と秋に活動するヒゲナガ成虫は同じ世代ではないが、ヒトツトゲ成虫は少なくとも部分的に同じ世代であることを示唆する。この違いは両種の生活史の違いを示すものと思われる。

- 15 千葉県南部に生息するマダニ類の生態**
角田 隆（千葉衛研）・森啓至（千葉中食検）
Ecology of ticks in southern part of Chiba Prefecture
Tsunoda T. and Mori K.

千葉県南部、天津小湊町に定点を設け、1992年から2年間にわたって植物上における行動を中心に、マダニ類の生態を調査した。毎月、コドラート内の植物を3株ランダムに選び、マダニが確認された場合は、植物上の部位、高さなどを記録した。調査の結果、定点においてはフタトゲチマダニとオオトゲチマダニが優占種であり、その他チマダニ属3種が採集された。フタトゲとオオトゲ両種において、发育ステージごとに植物上の高さ・利用部位を比較したところ、ステージによって植物上に静止する高さに違いが見られた。また、利用部位についても、フタトゲでは全ステージに共通して、夏期には葉裏、冬期には茎を選好する傾向が見られ、季節に応じて利用部位を変えていることがわかった。

- 17 ビル屋上に発生するタカラダニの産卵状況と防除事例**
○伊藤弘文・白坂昭子（アベックス産業）
Observations of the oviposition and control of Erythraeidae sp., breeding on the rooftop.
Itou H. and Shirasaka A.

近年、ビルの屋上や日当たりのよい壁面、コンクリート塀などに出現するタカラダニの防除を依頼されることが多くなった。しかし、このダニの生態には不明な点が多く、防除方法も確立されていない。

演者らは、東京都品川区内の工場に発生したタカラダニの防除を行うとともに、生態を知るために成虫を採集し実験室で飼育したところ、産卵させ、孵化させることに成功した。また、野外での産卵場所についてもいくつかのケースを確認した。

卵の形状は、長径175～210μ、短径160～170μの球形で、色は赤褐色、表面は粘性の液で濡れ、12～35個でブドウの房状の塊を形成していた。

孵化に要した日数は最短で121日、最長で153日であった。

野外での産卵場所は、屋上に生えるコケ中やコンクリート構造物の隙間等であった。